

日本版主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness Scale: SHS) の 信頼性と妥当性の検討

シマイ サトシ オオタケ ケイコ ウツ キナリスケ
島井 哲志* 大竹 恵子^{2*} 宇津木成介^{3*}
イケミ アキラ
池見 陽* Sonja Lyubomirsky^{4*}

目的 本研究の目的は、日本版主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness Scale: SHS) の信頼性と妥当性を検討することであった。

方法 日本版 SHS は 4 項目からなる尺度であり、翻訳およびバックトランスレーションを行い、原著者による概念の同一の確認を受け、日本語版項目の作成を完成した。大学生 364 人 (男性 158 人, 女性 206 人) を対象に質問紙調査を実施した。調査内容は、日本版 SHS, positive health のうち生活充実感の 5 項目, GHQ28 項目, 自尊感情尺度 10 項目であった。再テスト信頼性は 5 週間隔で行った。

結果 日本版 SHS の α 信頼性係数は .80 から .84 であり、内的整合性が高いと考えられた。再テスト信頼性については、5 週間隔において相関係数が .86 であり、日本版 SHS の再現性は高いことが示された。因子分析の結果から、SHS は 1 因子構造であることが示された。SHS の得点が高いことが、positive health の質問項目、自尊感情の得点の高さに関連していることが明らかにされた。また、SHS が高い人は健康であり、特に、うつと負の相関関係にあることが示された。

結論 以上の結果から、日本版 SHS 尺度は、再テスト信頼性、収束的妥当性、弁別的妥当性ともに高いことが示唆された。

Key words : 日本版幸福感尺度 (SHS), 再テスト信頼性, 収束的妥当性, 弁別的妥当性.

* 神戸女学院大学人間科学部

^{2*} 関西学院大学文学部・ミシガン大学・日本学術振興会

^{3*} 神戸大学国際文化学部

^{4*} カリフォルニア大学リバーサイド校心理学部

連絡先: 〒662-8505 西宮市岡田山 4-1

神戸女学院大学人間科学部 島井哲志